

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音(Aユニット)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	平成30年10月30日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2294200759-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の外部評価で指摘、期待された事柄を視野に、改善やステップアップの為の実践に力を入れ、内外とも課題向上の評価を頂けるように、職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーマーケットやホームセンターが点在する、便の良い地域に事業所はあります。ファイルの背表紙が整然と並び気持ちの良い棚は、以前に増して取り出し易くなり、職員が業務へ関心を持ったり、マニュアル等を手にとる機会が増えています。サービス提供状況(モニタリング)報告書の作成をはじめ外部評価における自己評価も職員一人ひとりが取組むよう管理者指導があり、「前回(2年前)に比べ、職員の表情が引き締まってきましたね」と、外部評価調査者も気づく程です。職員の成長は利用者へ声をかける頻度にも如実に現れ、またカンファレンスの時間が超過することでも利用者への関わり度が増幅したことが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月25日のミーティング時に職員一同で声出し唱和の実践をして毎月の確認をしています。	理念は玄関に掲示され、来客者の目にも触れるように配慮しています。。ミーティングでも唱和することを慣行させ、花音の方針を念頭に置いた話し合いを進めていて、理念への取組み状況が前回よりも向上しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生員や回覧板による町内とのつながりが確立でき交流を深めています。	ナツメロの会は定期で、随時では漫談や落語でのボランティア訪問があります。またこれまでのやりとりに多少の誤解があり、関係を結ぶことができていなかった民生委員が協力くださるようになっていて、地域とのつきあいに前進がみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、業種別の第三者の出席を促し理解を増やしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前より民生員、他業種の出席が増え、毎回代表職員が出席し、話し合いの共有をする事により、今後のサービスの向上、生活の豊かさを目指し努力をしています。	「外部の第三者に関わってもらいたい」との考えを以て、訪問看護や訪問マッサージ、福祉用具の事業所、薬局などへ積極的に参加を呼び掛けています。そのかいあって家族も直接他サービスに質問もでき、安心を得る場へと昇華しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課とのやりとりも密に協力関係を築いています。	編成替えて、担当が新しく番町地域包括支援センターとなってからは、先方から電話や訪問を受けることが増えています。事業所としては大変嬉しいことで、「地域の空き情報なども…」とプラスの要望を挙げるに至り、関係構築が進んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りなどを密にし、本人の行動の意味を考え、改善を模索しながらより良いケアに取り組んでいます。	運営推進会議では「現在身体拘束となる症状の人はいません」と宣言し、本件に係る状況報告をしています。本年法改正の内容について以上の取組みで合致しているのか否かは、今後市役所と相談することとなっています。	市役所の回答いかんでは12月、1月、2月、3月と毎月実施のうえ、完遂させることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画の中での施設研修を通じて、間違いのないよう学び、防止の徹底に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期、権利擁護に関する外部研修の報告から、制度や必要性を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より丁寧な説明を行い、必要に応じ納得頂けるよう疑問点を解決、理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所時の意見、要望を外部協力機関に提示し、運営に反映しています。	数名なもの、家族には運営推進会議にも参加してもらえらるほか、面会を通じて密なコミュニケーションをとっています。外出記録、行事記録を以て本人の様子を写真などから確認してもらうとともに、運営推進会議の議事録は全家族に届けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング内での意見も増え、理解、納得できるまで代表、管理者を交え、話し合いの機会が出来ているが、一部確実な返答が得られない部分を感じている職員もいます、管理者は臨時で夜勤に入るが、代表者の夜間滞在はまだない。	ミーティングの定例化など現管理者となってから職場環境は大きく前進していて、休日や夜間でも何かあれば駆けつけてくれる管理者に職員も信頼を寄せています。また管理者を含み、職員間のリレーションは円滑で、職員弁では「年齢や経験を気にせず言い合える」関係にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表を用い個々の情報を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間外部研修の機会を設け、多くの参加が出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ、同業者との交流を増やしたいが、実際は多くの機会が作れない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事に、ゆっくりと話を聞き出来る限りのケアを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談時にじっくりと話を聞き職員とも共有し、家族の方の不安を取り除くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との会話を大切に、必要としている支援に気付き対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉だけでなく、しぐさや目線等に気を配り、一方的な立場にならないように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話を大切に、より良い関係を築けるようにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方も面会に多く見え、笑顔で話されています。職員も笑顔での対応を心掛けています。	家族だけでなく自宅近所や友人の訪問が比較的多くあり、居室に案内してゆっくりしてもらっています。また家族も以前から通う美容院や歯医者に送迎しつつ、利用者との関わりを作ってください、帰りに外食に立ち寄って戻ることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくフロアにいて頂き、体操やレクレーションを通じて関わりを持って頂けるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話をする時間を作る事に努め、モニタリングの回数が年間6~8回に増え、状況を把握し、本人本位の立場になって希望に添うよう努めています。	カンファレンスの時間が超過することでも利用者への関わり度が増幅したことが見え、利用者の声かけも徐々に増えています。例えば本を読む人の傍を通るとき、「何読んでるの?」「どこまで読んだの?」といった何気ない言葉を落としていく姿が管理者の目に留まるようになっていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に関する情報を多角的に集め把握し繁栄させている、又職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察、一日の生活を記録し変化があれば情報共有し、職員が一人一人把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員全員で行い、日々の様子や以前との変化に合ったケアをし、ミーティングを通して共通したケアを実践、計画作成しています。	サービス提供状況(モニタリング)報告書は職員一人ひとりが取組み、計画作成担当者である管理者が介護計画書を作っています。また休憩室にはケアサービスに必要な知識本や資料、外部研修の案内を置き、取組意欲を培っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化、気づきも情報交換し、日々の変化を見落とさず、実践や介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な状況や家族の事情に細やかに対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが継続出来る様、最大限の地域資源が協働出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化や毎日の気付きを記入し受診時に適切な医療を受けられるように支援しています。	2名は家族希望から従来のかかりつけ医を続けていて、家族の受診支援がお出かけの機会につながっています。また他の16名の訪問診療を月1回おこなってくださる協力医は前述の2名についても看取り支援を快諾くださり、診療情報は申し送りノートで共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に1週間のようすを的確に報告しアドバイス、指示を受け利用者様に反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方と病院関係者と面談し情報の共有を図り、納得できる様、話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の日々の様子と、ご家族の希望に添える様に話し合い、最善なケアが出来る様、職員同士で協力しています。	契約時に家族に説明しており、救急搬送時情報提供シートも備えています。看取りをおこなう事業所としての認識が家族にある一方で、医療的なことが必要なら移設となることも理解してもらえ、職員は何かあれば管理者が駆けつけるのが常のため、看取りについても介護の一環と受容しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が受けたスキルアップの講習を皆で共有したり、消防の協力を得ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていて、消防署との連携もとれています。	以前は年5回おこなっていた防災訓練は、本年は諸所あって現時点で3回に留まっています。水消火器を使ったり、避難経路を確認することを主なメニューとするほか、(心配ない地域なもの)水害における避難場所まで徒歩で移動することも体験しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で利用者様が不快感を感じない様に声掛け対応に心がけています、前回指摘の面会簿の来客氏名オープンについてのあり方は介護保険課では問題ないと回答を頂いています。	職員は総じて朗らかで、礼節をわきまえています。またリビングでは言葉が出ない利用者と同じテーブルを囲む人たちが微笑みかけたり、あいづちしたり、話しかける様子が在り、職員が黒子として橋渡しをする様子に安寧を覚えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、要望を聞きながら、職員の一方的押し付けでなく、声かけしながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態、趣味を考慮し、制作作業をしたり、休息、読書など本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等、ご本人に決めて頂いたり、提案をさせてもらったりと本人希望や季節、気温に合った身だしなみを一緒に考え決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ケイタリングを主として利用していますが、イベント時などは利用者の好みの物を提供しています。	ご飯と汁物は職員の手作りです。惣菜はケイタリングで湯煎したもののため、職員が「これって飲み込めないんじゃない?」「無理だよ」と都度チェックをしつつ、提供されています。それでも時にはカレーを作ったり、おやつではホットケーキを焼く等、食の楽しみを加えています。	ケイタリングは備蓄が1週間ほどあることにもなっていてメリットもありますが、食レクが増えていくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々の健康状態に応じて盛り方や量を支えています、水分量は1000cc以上を目標に回数を多くしたり、声かけをし、なるべく多く摂取して頂く様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをなるべく、ご自分で行って頂き、出来ない方には職員が介助して口腔ケアを行い、清潔保持が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を見ながら、声掛け誘導し、車椅子の方には、2人対応の事もあり見守りしながら排泄のお手伝いをしています。	排泄チェック表をつけていますが、1日50回超えの利用者のものは記入の仕方を職員が工夫しています。また「布パンツをできるだけはいてもらいたい」として、パットを再吟味して、「柔らかいもの」「サイズが合うもの」に替える取組みもおこなわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、水、牛乳などを飲んで頂き、夕方は飲むヨーグルトを飲んで頂く、朝食後はなるべくトイレへ誘導し、日中は歩行もして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は職員と一緒に着る服を選んだり、自分で用意出来る方はやってもらったりしている、入浴時は1対1なので本人から色々話をして下さる事が、コミュニケーションがとれています。	「一番風呂に入りたい」という人の希望にも応えられるよう輪番で、入浴は週3日を目安にしています。冬至には浴剤を柚子にしたり、普段からローズや森林等3種類ほど用意しての入浴タイムを楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して寝て頂く為、昼間は少なめにさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤時の薬のセット時、薬の確認や目的、用法など理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動、体操、色塗り、脳トレ、歌、俳句等のレクリエーションをさせて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとにレクの職員が企画を考えて、四季に合わせてお出かけやドライブ、散歩など外出支援に努めてるが、家族によっては個別外出して下さる方もいる、天候が良い日は中庭で体操や歌を唄っています。	真富士の里でももぎの御焼を食べたり、足久保の花見など季節を感じる事ができる場所には出かけるようにしていますが、外出を年間行事には位置付けてはいません。目前の道路の交通量が多いため門扉から出ることはほとんどなく、庭の中を周遊したり外気浴をおこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は大事にお預かりしていますが、必要な物品がある時には利用者、家族に相談して、購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の考えを尊重して、やり取りが出来る様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク担当職員と利用者様の共同で壁飾り等を作成し、四季折々に掲示を替え、楽しい空間作りをしています	あるべき場所に戻す習慣が定着し、掃除が行き届いていて、気持ちの良い共用空間です。また花音の名称にちなんで紫陽花やチューリップ、シクラメンと多彩な花々を折り紙で制作して、音符をバックに目にも楽しい掲示に仕上げています。	利用者の各居室に家族の承諾を得て預かってもらっている事業所の備品については再検討されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には施設せず、気の合った利用者同士が出入り出来る様にしている、又共用空間のフロアも明るい雰囲気作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険と思われる物以外は、家族や本人の意思を尊重して過ごしやすい様にしています。	独居からの入所で家宅を引き払った人の居室には昔ながらの電話機が置かれていたり、モノが余りないなかに花音でのアクティビティ作品を置いて彩りを醸し出している部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力が異なる状況の中で、それぞれの能力を理解し、安全面に注意しながら、各個人出来る事は行って頂く。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音(Bユニット)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	平成30年10月30日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2294200759-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の外部評価で指摘、期待された事柄を視野に、改善やステップアップの為の実践に力を入れ、内外とも課題向上の評価を頂けるように、職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーマーケットやホームセンターが点在する、便の良い地域に事業所はあります。ファイルの背表紙が整然と並び気持ちの良い棚は、以前に増して取り出し易くなり、職員が業務へ関心を持ったり、マニュアル等を手にとる機会が増えています。サービス提供状況(モニタリング)報告書の作成をはじめ外部評価における自己評価も職員一人ひとりが取組むよう管理者指導があり、「前回(2年前)に比べ、職員の表情が引き締まってきましたね」と、外部評価調査者も気づく程です。職員の成長は利用者にも声をかける頻度にも如実に現れ、またカンファレンスの時間が超過することでも利用者への関わり度が増幅したことが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月25日のミーティング時に職員一同で声出し唱和の実践をして毎月の確認をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	民生員や回覧板による町内とのつながりが確立でき交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、業種別の第三者の出席を促し理解を増やしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前より民生員、他業種の出席が増え、毎回代表職員が出席し、話し合いの共有をする事により、今後のサービスの向上、生活の豊かさを目指し努力をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課とのやりとりも密に協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りなどを密にし、本人の行動の意味を考え、改善を模索しながらより良いケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画の中での施設研修を通じて、間違いのないよう学び、防止の徹底に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期、権利擁護に関する外部研修の報告から、制度や必要性を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より丁寧な説明を行い、必要に応じ納得頂けるよう疑問点を解決、理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所時の意見、要望を外部協力機関に提示し、運営に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング内での意見も増え、理解、納得できるまで代表、管理者を交え、話し合いの機会が出来ているが、一部確実な返答が得られない部分を感じている職員もいます、管理者は臨時で夜勤に入るが、代表者の夜間滞在はまだない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表を用い個々の情報を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間外部研修の機会を設け、多くの参加が出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ、同業者との交流を増やしたいが、実際は多くの機会が作れない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事に、ゆっくりと話を聞き出来る限りのケアを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談時にじっくりと話を聞き職員とも共有し、家族の方の不安を取り除くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との会話を大切に、必要としている支援に気付き対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉だけでなく、しぐさや目線等に気を配り、一方的な立場にならないように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話を大切に、より良い関係を築けるようにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方も面会に多く見え、笑顔で話されています。職員も笑顔での対応を心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくフロアにいて頂き、体操やレクレーションを通じて関わりを持って頂けるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話をする時間を作る事に努め、モニタリングの回数が年間6~8回に増え、状況を把握し、本人本位の立場になって希望に添うよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に関する情報を多角的に集め把握し繁栄させている、又職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察、一日の生活を記録し変化があれば情報共有し、職員が一人一人把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員全員で行い、日々の様子や以前との変化に合ったケアをし、ミーティングを通して共通したケアを実践、計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化、気づきも情報交換し、日々の変化を見落とさず、実践や介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な状況や家族の事情に細やかに対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが継続出来る様、最大限の地域資源が協働出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化や毎日の気付きを記入し受診時に適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に1週間のようすを的確に報告しアドバイス、指示を受け利用者様に反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方と病院関係者と面談し情報の共有を図り、納得できる様、話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の日々の様子と、ご家族の希望に添える様に話し合い、最善なケアが出来る様、職員同士で協力しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が受けたスキルアップの講習を皆で共有したり、消防の協力を得ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていて、消防署との連携もとれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で利用者様が不快感を感じない様に声掛け対応に心がけています、前回指摘の面会簿の来客氏名オープンについてのあり方は介護保険課では問題ないと回答を頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、要望を聞きながら、職員の一方的押し付けでなく、声かけしながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態、趣味を考慮し、制作作業をしたり、休息、読書など本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等、ご本人に決めて頂いたり、提案をさせてもらったりと本人希望や季節、気温に合った身だしなみを一緒に考え決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ケイタリングを主として利用していますが、イベント時などは利用者の好みの物を提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々の健康状態に応じて盛り方や量を支えています、水分量は1000cc以上を目標に回数を多くしたり、声かけをし、なるべく多く摂取して頂く様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをなるべく、ご自分で行って頂き、出来ない方には職員が介助して口腔ケアを行い、清潔保持が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を見ながら、声掛け誘導し、車椅子の方には、2人対応の事もあり見守りしながら排泄のお手伝いをしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、水、牛乳などを飲んで頂き、夕方は飲むヨーグルトを飲んで頂く、朝食後はなるべくトイレへ誘導し、日中は歩行もして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は職員と一緒に着る服を選んだり、自分で用意出来る方はやってもらったりしている、入浴時は1対1なので本人から色々話をして下さる事が、コミュニケーションがとれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して寝て頂く為、昼間は少なめにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤時の薬のセット時、薬の確認や目的、用法など理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動、体操、色塗り、脳トレ、歌、俳句等のレクレーションをやって頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとにレクの職員が企画を考えて、四季に合わせてお出かけやドライブ、散歩など外出支援に努めてるが、家族によっては個別外出して下さる方もいる、天候が良い日は中庭で体操や歌を唄っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は大事にお預かりしていますが、必要な物品がある時には利用者、家族に相談して、購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の考えを尊重して、やり取りが出来る様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク担当職員と利用者様の共同で壁飾り等を作成し、四季折々に掲示を替え、楽しい空間作りをしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には施錠せず、気の合った利用者同士が出入り出来る様にしている、又共用空間のフロアも明るい雰囲気作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険と思われる物以外は、家族や本人の意思を尊重して過ごしやすい様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力が異なる状況の中で、それぞれの能力を理解し、安全面に注意しながら、各個人出来る事は行って頂く。		